おしえてドクター　メディカルフロントライン

下肢静脈瘤の高周波治療を説明する坂田院長（左）と中西ふみ子さん

下肢静脈瘤

加齢や立ち仕事が主な要因

「坂田血管外科クリニック」坂田 雅宏院長に聞く

聞き手・ラジオ大阪パーソナリティー 中西 ふみ子さん

足の皮膚がボコボコになり血管が蛇行、腫れやこむら返りを起こす下肢静脈瘤。加齢が主な要因で、誰でも発症につながる恐れがある。この症状を病気と思わずに放置する人が多く、皮膚の大変な潰瘍や炎症を起こすケースも。下肢静脈瘤の専門クリニックで、大阪市中央区の「坂田血管外科クリニック」（坂田雅宏院長）は、治療実績が1万肢を超える。ラジオ大阪のパーソナリティー、中西ふみ子さんが坂田院長に手術法の変遷や予防、症状別の治療法などを聞いた。

●皮膚の構造的な欠陥が原因

中西　下肢静脈瘤はどのような病気ですか。

坂田　下肢静脈瘤は、人間の皮膚の構造的な欠陥によるものです。地球上では、常に重力の影響を受けていますが、人間の柔らかい皮膚は、起立時に、十分に足をサポートすることができません。この皮膚という重力スーツの欠陥のため、足の圧迫が不十分となり、静脈の拡張を超えることができず、静脈瘤ができます。

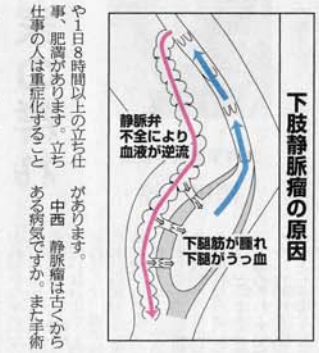
下肢静脈瘤は大きく分けると、太い静脈瘤と細い静脈瘤があります。太い静脈瘤は足の付け根からコブのようにボコボコした血管が蛇行し、足全体の腫れを伴います。特徴は色が薄く、あまり目立ちません。細い静脈瘤は、表面に近い静脈が拡張し、青色をした網の目や赤色でクモの巣のように広がるタイプです。

●人間が最初に気付いた病気

中西　大学卒業後、下肢静脈瘤の手術をたくさんされています。女性に多いと思いますが。

坂田　静脈瘤の手術は、神戸労災病院から通算しますと、1万肢を超えています。この病気は女性特有ではありません。遺伝的な面もありますが、年齢パーセント（60歳であれば60％）といわれ、年を重ねることに発症率は高くなります。誰でも可能性があります。ただ、来院する人は倍か3倍の比率で女性が多いですね。審美的側面があるからだと思います。

発病する要因には、加齢や1日8時間以上の立ち仕事、肥満があります。立ち仕事の人は重症化すること



がある病気ですか。また手術の方法も変わってきていますか。

坂田　二足歩行になった人間が最初に気付いた病気の一つかもしれません。紀元前にはパピルスに静脈瘤と思われる疾患が残されています。また、圧迫療法や、静脈を結ぶ、静脈を抜き取る治療なども出現しています。近代の欧米では弾性ストッキングの開発や硬化療法、静脈結紮術が始まり、静脈血管のうちにあり、血液が心臓に向かうときに開き、心臓から遠ざかる方向には閉じ、逆流を防ぐハート形の弁（静脈弁）があります。

中西　それぞれの部分がどのように機能するのですか。

坂田　足の筋肉と静脈弁と静脈が一つになってポンプの役目をしています。表在静脈は弁で小さく区切られた部屋になり、血液をためます。筋肉が緩むとたまっていた血液が穿通枝を通り、筋肉に吸い込まれます。筋肉に力が入ると筋肉内の血液が深部静脈に絞り出され、逆流を防ぐ弁の働きで、血液が心臓に送られます。表在静脈は心房、筋肉は心室の働きと似ており、第2の心臓といわれます。

●下腿筋ポンプは第2の心臓

中西　足の静脈の構造を教えてください。

坂田　足の皮膚の下に脂肪層、その下に筋肉を包み守っている筋膜があります。筋膜より深いところにあるのが深部静脈。筋膜より浅いところが表在静脈です。その2つの静脈をつなぐのが穿通枝です。そして静脈血管のうちにあり、血液が心臓に向かうときに開き、心臓から遠ざかる方向には閉じ、逆流を防ぐハート形の弁（静脈弁）があります。

中西　それぞれの部分がどのように機能するのですか。

坂田　足の筋肉と静脈弁と静脈が一つになってポンプの役目をしています。表在静脈は弁で小さく区切られた部屋になり、血液をためます。筋肉が緩むとたまっていた血液が穿通枝を通り、筋肉に吸い込まれます。筋肉に力が入ると筋肉内の血液が深部静脈に絞り出され、逆流を防ぐ弁の働きで、血液が心臓に送られます。表在静脈は心房、筋肉は心室の働きと似ており、第2の心臓といわれます。

●壊れた静脈弁が血液を逆流

中西　静脈瘤が起こる仕組みは。

坂田　深部静脈がくみ上げた血液が、足の付け根付近にある表在静脈の弁が壊れて逆流するのが下肢静脈瘤です。逆流すると、また足の筋肉が吸い取り、深部静脈がまた、くみ上げる。この繰り返しだとうなります。

初めは血液の逆流は少しずつですが、増えてくると足の筋肉が膨れ、ひどくなると皮膚炎などになります。ただ、症状が出ても治療する人が少ないのが現状ですね。

中西　そのうち治ると、様子を見ようという感じなんですね。

坂田　様子を見る人が多いですね。初期の静脈瘤が重症になるのは10～20年先で、気が付かないのです。例えば、妊娠、出産ですね。そのとき、軽い静脈瘤が発症していますが、症状は進まない。40～50歳になり症状が重くなるのです。立ち仕事では両足が腫れます。ただ、静脈瘤は両足に出てくる場合もあり、一般の人は判断が非常に難しい。腫れやすさ、こむら返りの症状があれば、治療開始のサインと思ってください。

中西　思い当たることがあります。治療できますよね。

坂田　治療できます。重症は皮膚に潰瘍ができ、色が変わり、皮膚炎などを起こします。中等症は、足に腫れがある、だるい、こむら返り…の症状です。軽症は表面の静脈がデコボコで蛇のように曲がる。これより軽いのが症状はなく、筋肉ポンプの心不全です。

中西　立ち仕事をしていて家に帰ると、足が腫れたようになることがありますが。

坂田　静脈瘤の腫れはほとんどの場合、右か左足のどちらかに見られます。立ち仕事では両足が腫れて